

令和六年度
名寄市立大学
一般選抜 前期日程

小 論 文 問 題

試験時間 一〇時〇〇分～一一時三〇分（九〇分）

*受験上の注意

- ① 指示があるまで開いてはいけない。
- ② 指示に従って、静粛に行動すること。
- ③ 机上には、受験票、HBの黒鉛筆またはシャープペンシル（シャープペンシルの芯はケースから取り出したもの）、消しゴム、鉛筆キヤップ、鉛筆削り、時計、眼鏡、目薬、ハンカチ、ティッシュペーパー（袋・箱から取り出したもの）以外、不要な物は置かないこと。
- ④ 質問、用便その他、特に必要のある場合は静かに手を挙げ、指示を求めること。
- ⑤ 不正を行ったものは試験を中止し、以後の受験資格を失うものとする。

次の文章を読み、あとの間に答えなさい。

ひとたび国内および世界の不平等の規模を知ると、GDP成長を人類の進歩の指標にする筋書きは少々偏っているように思えてくる。さらに言えば、一種のイデオロギーではないか、とさえ思える。ここで言うイデオロギーとは、専門的な意味でのイデオロギーだ。それは支配階級に利益をもたらし、彼らが推奨する一連の思想で、支配される人々はその思想を正しいと信じきっていて、従うことを厭わない。イタリアの哲学者アントニオ・グラムシは、これを「文化ヘゲモニー」と呼んだ。支配階級が押しつけたイデオロギーが常識や規範として社会に浸透し、逆らうのが難しい、あるいは不可能になる状況だ。

世界の支配層は、世界で何が起きているかを熟知している。知らないと考えるのは、お人好しすぎるだろう。彼らは所得分布のデータを知っていて、そのデータに従って生きている。彼らの頭にあるのは、国内と世界の所得における自分たちの取り分を増やすことだけだ。彼らがより多くの成長を求めるのは、結局のところ、資本蓄積のメカニズムを加速させたいからだ。成長と人類進歩との関係についての彼らの主張は言い訳にすぎない。もちろん彼らは、成長がやがて貧しい人々の所得を向上させ、結果的に社会的対立が緩和されることを望んでいる。貧困層の所得が増えれば、支配層の蓄財は政治的に容認されやすくなる。しかし生態系が危機に瀕している時代にあつて、もはやこの戦略は通用しない。何かを変えなくてはならない。

成長主義の問題点は、それが数十年にわたって、分配という難しい政治課題からわたしたちの目を逸らしてきたことだ。成長は誰にとっても良いことだとわたしたちは決めつけ、政治の主体を成長にまつわる怠惰な計算に任せてきた。気候の緊急事態はこの状況を変えよう。それは世界経済のひどい不平等を直視することをわたしたちに強い、政治的議論の場にはわたしたちを追い込んだ。人々の生活を向上させるために全体の成長が必要だという考えは、もはや意味をなさない。誰にとつての、何のための成長かを、はっきりさせる必要がある。わたしたちはこう訊ねるべきだ。「そのお金はどこへ行くのか?」「誰が、そこから利益を得るのか?」「生態系が崩壊しつつある時代に、総収益の4分の1近くが億万長者の懐に入るような経済を受け入れてよいのだろうか」と。

アメリカ連邦準備制度理事会の元メンバーであるヘンリー・ウォリックの次の言葉はよく知られる。「成長は、所得の平等の代わりになるものだ」。実際、その通りだ。GDP成長を加速させ、その一部が貧困層にしたたり落ちるのを期待するほうが、既存の所得をより公平に分配するより政治的には容易だ。しかし、ウォリックの論理を180度転換することができる。もし成長が平等の代わりになるのであれば、平等は成長の代わりになるはずだ。わたしたちは豊かな惑星に生きている。もし、すでに持っているものをより公平に分かち合う方法を見つけたことができれば、地球からこれ以上、略奪する必要はなくなる。公平さは成長の解毒剤なのだ。

人々の生活を向上させるには経済全体の成長が欠かせないという主張は、わたしたちに

恐ろしい二者択一を迫る。人間の福利を選ぶか、それとも生態系の安定を選ぶか、との選択は不可能であり、誰もが目を逸らそうとする。しかし、不平等の仕組みを理解すれば、突然、選択ははるかに容易になる。より平等な社会で生きるか、それとも生態系を崩壊させるか。ほとんどの人は抵抗なく選択できるはずだ。もちろん、その実現は簡単ではない。現状から並外れた利益を得ている人々との熾烈な戦いが求められるだろう。実際、この方向に進むことに頑として抵抗する人々がいる。彼らは地球を犠牲にしても世界の所得配分を現状のままにしておきたいのだ。

（『資本主義の次に来る世界』ジェイソン・ヒッケル著／野中香方子訳 東洋経済新報社
二〇二三年より）

問 「人々の生活を向上させるには経済全体の成長が欠かせない」という主張に対し、あなたの考えを八〇〇字以上一〇〇〇字以内で述べなさい。